

忍ぶ川

観賞日 2018・11・12

制作 1972年 東宝
監督 熊井啓
原作 三浦哲郎
音楽 松村禎三
出演 栗原小巻（志乃）、加藤剛（哲郎）
信欣三（志乃の父）、岩崎加根子（哲郎の姉・香代）



【あらすじ】

私が志乃と知りあったのは寮の卒業生送別会の晩であった。私は青森の旧家の6人兄弟の末っ子で27歳の大学生。志乃は料理屋忍ぶ川の看板娘。二人の初デートの場所は二人ともに縁のある深川であった。志乃は洲崎遊郭にあった射的屋の娘であることを告白した。私は私以外の兄弟が皆、自殺や失踪をしたり眼が不自由であったりという不幸な血筋であることを手紙に書き、そのことが二人をより一層近付けた。

ある日、私は友人から志乃に婚約者がいることを知らされる。志乃にそのことを問い詰めると、志乃にはその気はないが断り切れないでいるという。私は志乃の実家のある栃木に赴き、死の間際にあった父親と会い結婚の許しを得る。

大晦日に私は故郷の青森に志乃を伴って帰り内輪で結婚式を行う。初夜を終えて、志乃は新しい志乃になった。

暗く重い過去を背負った二人が惹かれあい結ばれる。過去との決別、新たな再生を誓う純愛物語。栗原小巻、眩いばかりの26歳。

【解説】

■原作は三浦哲郎の1960年下期芥川賞受賞作。社会派監督熊井啓が映画化

・難産であった映画化

川島雄三（若尾文子主演）他有名監督が映画化に名乗りをあげたが実現せず

・本作

当初、吉永小百合主演で企画されたが吉永側と折合いがつかず、栗原小巻主演で実現結果的には栗原の代表作となった

■見どころ

・主演女優栗原小巻

清純派栗原小巻の初夜のシーンは公開当時話題に

栗原の美しさを魅せるアップシーンの多用

・サユリストとコマキスト

二人は当時の男性ファンの人気を二分したが、意外にも全く同世代

吉永：昭和20年3月13日生まれ、栗原：昭和20年3月14日生まれ

・モノクロ映像

制作されたのは1972年（カラー時代）であるが描かれた世界は1950年代（モノクロ時代）